

平成28年度 宇佐市興農会被表彰者

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
1	農業後継者	これなが 是永 こういち 功一	大字四日市	<p>地区農業の担い手として手広く営農する父との協働を通じて、農業技術や営農に対する心意気、地域や集落との協調と貢献などのすべての面で父子直伝により体得しつつある。</p> <p>若手の専業農家が他に居ない当集落において、労働が集中・遍在する米作一本ではない新しい営農モデルを目指し、投入労働力の平準化と直売により売値を自律的に決めることで、安定した農業経営につながることを実証しつつあり、今後の集落における模範となる農業後継者である。</p>
2	農業後継者	たばた 田畑 まさとし 政敏	大字下高家	<p>地区の環境保全組合の事務局（会計）として、2期7年目を向かえる。営農組合の中心的な存在。</p> <p>高齢などにより耕作できない農家の圃場を引き受けるなど、地域農業、農地を守ることに貢献している。</p> <p>また、宗像公民館の館長として3期5年目を向かえ、地区行事の中心的な存在として永年お世話をしている。</p>
3	優良生産農家	はら 羽良 よしみつ 恵充	院内町月俣	<p>高齢化が進み、耕作不能の農家が急増する中、その大半を引き受け、中山間地の農業の守り手となっており、地域の全ての人が頼みとする人材。永年にわたりイチゴ栽培にも取り組み稲作と共に成功させている。技術面なども他の農家の手本となっている。</p>
4	優良生産農家	そのだ 園田 なおひこ 直彦	安心院町中山	<p>中山利用組合長、安心院ぶどう部会副部長、安心院ぶどう部会研究部役員等を歴任し、地域における貴重な担い手として、地域が活性化するため尽力している。平成19年から認定農業者を取得し、農業に対して規模を拡大して取り組むとともに、農業青年活動等に積極的に取り組み、第52回全国ブドウ研究大会大分県大会（平成27年度）では事例発表を行うなど、リーダー的存在である。平成24年度には第16回大分県果樹山地活性化プラス10運動推進コンクールの一般部門で優秀賞も受賞している。</p>
5	優良生産農家	しまだ 島田 さだくに 定國	大字畑田	<p>中学校卒業後、農業一筋に妻と二人で11haの耕作を行っている。現在、認定農業者として農業者の高齢化や農業経営の将来に不安を感じている人が多い中、農地の購入、借り入れを行って耕作面積の増加を図り、耕作放棄地の防止等に積極的に取り組んでいる。また、できるだけ農薬を抑えた栽培など、環境に配慮し生産性の高い経営を行なっている。</p>
6	優良生産農家	ごとう 後藤 しんや 信也	大字佐々礼	<p>平成18年から農協の白ネギ部会の後継者（担い手）となる。</p> <p>農地の未整備地域における担い手のいない農家から、貸し出しの申し出を快く引き受け、特に耕作放棄地などは借受後、圃場の整備を自ら行い耕作するなど、地域の農地の環境保全などにも貢献している。</p>
7	優良生産農家	よしもち 吉用 てつお 哲男	大字葛原	<p>葛原アグリクラブの一員として、大分県知事賞や大分県農業協同組合、全国米麦改良協会などから表彰歴がある。また、三和酒類の「西の星賞」も生産者代表として受賞。</p> <p>葛原住民より信望が厚く、地域の盛り上げ役、活性化の中心人物であり、農地の環境保全組織の会計事務を10年担う。また、若年農業者に対し技術指導を懇切丁寧に行うなど葛原区の農業発展に寄与している。</p>

平成28年度 宇佐市興農会被表彰者

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
8	農業生産法人等	(農) 西大堀 代表理事 松原 富好	大字西大堀	任意の集落営農組織を起ち上げ営農を行っていたが、資金を内部保留できないこと、農地の権利主体になれないこと、組織の安定かつ継続性に限界を感じ、平成21年に法人を設立する。 西大堀地区は、水稻を中心に大豆や麦の栽培が盛んに行われており農地利用率も高い。しかしながら、近年高齢化等によりリタイアする農家が増えており、集落内の大規模農家との共存共栄を図っている。
9	農業生産法人等	(農) 荘グリーン 代表理事 石川 壽郎	安心院町荘	「荘の水田は荘で守りたい」「みんな仲良く、楽しい農業を続けられるよう無駄な投資をせずに、儲かる農業へ」をねらいとし、既に組織していた営農組合をベースに平成23年に設立。 水稻品種のつや姫や大豆のクロダマルの導入を行うなど、積極的に新しい取り組みを行っている。また、今後はサトイモの導入も行っており、生産体系の確立を図っている。
10	農業生産法人等	(農) かわしま 代表理事 今井 誠	大字城井	任意の集落営農組織を起ち上げ営農を行っていたが、1番規模の大きかった担い手の規模縮小を契機に将来の農業について話し合った結果、地域の農地を守るため法人化へと踏み切った。任意組織外の地権者なども含め全員参加型の法人を平成21年に設立。 川島集落は水稻を中心に大豆や麦等の栽培が盛んに行われており、農地利用率も高い。しかしながら、近年高齢化等によりリタイアする農家が増え、地区内には他集落からの大規模農家の入作もあり、共存共栄を図っている。
11	農業生産法人等	(株) 碑成園 代表取締役 遠嶋 ひとみ	安心院町 東椎家	設立母体である建設業開成建設工業(株)は、大分県のお他産業からの農業参入説明会で話を聞いた後、大分県に参入相談をし、品目を茶に決定した後、平成19年11月に(株)碑成園を設立。 今後も(株)伊藤園との茶産地育成協定に基づき面積拡大予定であり、平成31年までに50haの茶園を目指している。